

「コロナ禍での認知症予防と高齢者が元気で暮し続けられる町づくりの推進」

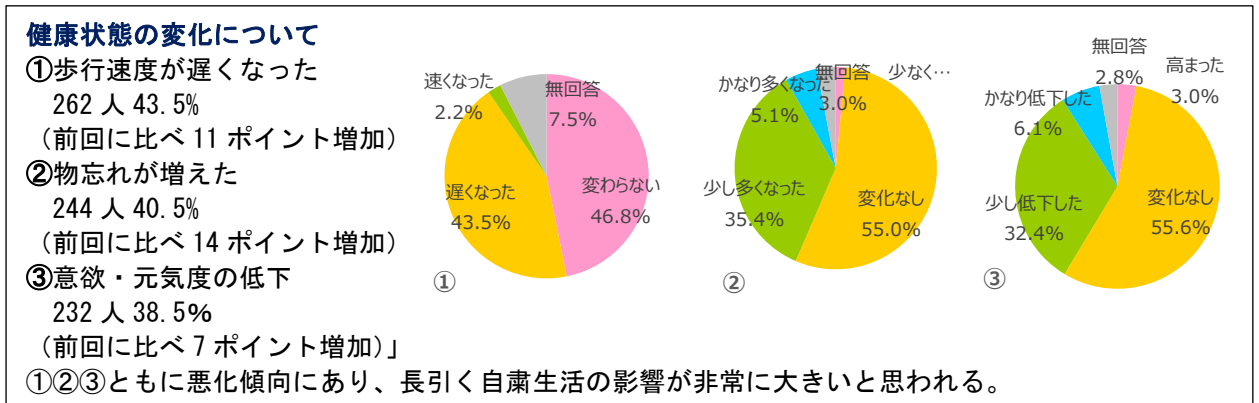
1. 事業が目指すところ

高齢者のフレイル問題が課題となる中、新型コロナウイルスによる長期の自粛が、高齢者の健康にどのような影響を及ぼすのかアンケートを実施、その結果を行政・専門職、地域に積極的に広報し、協働して高齢者の認知症予防と支え合いのまちづくりの活動を進める

2. 活動内容

①「認知症予防と支え合いのまちづくり」地域推進会議：月 1 回開催

②アンケート調査の実施：9 月～10 月：回収数：602 枚 ○アンケート結果一部抜粋



③ミニ講座「コロナ禍での認知症予防の進め方」

市内 4 区（東灘・中央・長田・須磨）で 5 回開催

東灘区：10 月 15 日・20 名、11 月 12 日・7 名

中央区：10 月 16 日・17 名

長田区：11 月 27 日・41 名

須磨区：1 月 15 日・36 名 延べ 121 名 参加



○ミニ講座 11/27 長田区

④脳いきいきクラブインストラクター養成講座開催

12 月 17 日（金）18 名参加

⑤認知症予防講演会開催：1 月 30 日・67 名参加



○講演会 1/30

⑥居場所交流会：2 月 26 日・予定

3. 成果や課題点

成果：①アンケートで、コロナ禍での長期の自粛による高齢者の健康状態の悪化（歩行速度、物忘れ、意欲元気度の低下）が進んでいる事が判明した

②長期の自粛による高齢者の健康障害の実態と感染予防と認知症予防を同時に取りくむための啓発を行政や社協、地域の地縁団体、専門職と連携し実施

課題：①感染拡大で不安が高まり参加者数の減少傾向があった

②啓発と居場所活動の拡大等認知症予防と支え合いのまちづくりを活動を取り組む地域をどう広げていくか

4. 今後の展望、成果の活用

①アンケートの結果や感染予防と認知症予防の取り組みについて、市内の全地域に啓発を広げる

②居場所の活動の再開・拡大等、地域の取り組みを拡大する

③地域の住民自身が取り組むまちづくりの活動の立ち上げを支援する